

## オセアニア地域研究のための基本文献

### <オセアニア全般に関するもの>

山本真鳥編、『[オセアニア史](#)』、山川出版社、2000年

オセアニアに関するスタンダードな通史。複雑で多様なオセアニアの概要が展望できる。

石川栄吉監修、大塚柳太郎、片山一道、印東道子編、『[オセアニアⅠ 島嶼に生きるーはじめて海を渡った人々](#)』東京大学出版会、1993年

石川栄吉監修、須藤健一、秋道智彌、崎山理編、『[オセアニアⅡ 伝統に生きるー海と島を舞台にした人々](#)』東京大学出版会、1993年

石川栄吉監修、清水昭俊、吉岡政徳編、『[オセアニアⅢ 近代に生きるービッグマン制から「近代」国家へ](#)』東京大学出版会、1993年

日本オセアニア学会創立15周年記念論文集。人類学、考古学、文化人類学、言語学、生態学などの分野から論文を集めている。現在のオセアニアに関するトピックを理解するのにもたまたき台として有用。

吉岡政徳監修、遠藤央、印東道子、梅崎昌裕、中澤港、窪田幸子、風間計博編、『[オセアニア学](#)』京都大学出版会、2009年

上に続き日本オセアニア学会創立30周年記念論文集。2000年代の研究を集めているが、上を読んだ後のアップデートとして。

加藤めぐみ、石川栄吉、小林泉監修、『[新版 オセアニアを知る事典](#)』平凡社、2010年

オセアニアに関し幅広いトピックを網羅した総合事典。

丹羽典生、石森大知編、『[現代オセアニアの<紛争>](#)』昭和堂、2013年

若手人類学者を中心に現在のオセアニアの抱える問題をフィールド調査に基づいて紹介する。

### <地域、トピック別>

藤川隆男編、『[オーストラリアの歴史](#)』有斐閣、2004年

オーストラリアの通史。読みやすく、様々なトピックをバランスに配慮しつつ網羅してある。オーストラリアを把握するには最初に手に取ることを勧める。

松山利夫、『[ブラックフェラウェイ](#)』御茶の水書房、2006年

オーストラリア先住民に関しては、様々な専門書も出ているが、本書は読みやすく、地域毎に異なる先住民の歴史と現状を把握するのに適している。

青柳まちこ編、『[もっと知りたいニュージーランド](#)』弘文堂、1997年

ニュージーランドの歴史に関してわかり易く解説。1990年代出版だが現在のニュージーランドを知るにも基本となる。

伊藤泰信『[先住民の知識人類学—ニュージーランド=マオリの知と社会に関するエスノグラフィ](#)』世界思想社、2007年

「マオリ個別の知」をキーワードにそれを生み出したニュージーランド先住民を取り巻く社会的・歴史的コンテクストを説明。専門的な内容も含むが、ニュージーランド先住民社会の構造的変動をわかり易く説明してある。

吉岡政徳、石森大知編著、『[南太平洋を知るための58章—メラネシア・ポリネシア](#)』明石書店、2010年

国、島ごとに様々なトピックを集めて簡単に説明した58章。読みやすい包括的入門書。

中嶋弓子、『[ハワイ・さまよえる楽園—民族と国家の衝突](#)』東京書籍、1993年

ハワイの通史。ハワイに関する研究、書物は多いが、ハワイの成り立ちに焦点を当てた、という点より最初に手に取ると良い本として推薦。

マーシャル・サーリンズ、山本真鳥訳、『[歴史の島々](#)』法政大学出版局、1993年

ハワイやフィジーなどの西欧との文化接触時代を構造主義的歴史人類学に基づく研究。多少難解な部分もあるが、オセアニアを中心的題材とした文化人類学の古典的成果の一つ。

秋道智彌、関根久雄、田井竜一編、『[ソロモン諸島の生活誌—文化・歴史・社会](#)』明石書店、1996年

メラネシアに関する網羅的な日本語文献は少ない。本書は、ソロモン諸島に絞ってあるが、その様な中での数少ない網羅的概説書である。

ピーター・ワースレイ、吉田正紀訳、『[千年王国と未開社会—メラネシアのカーゴ・カルト運動](#)』紀伊国屋書店、1981年

メラネシアに関して最もよく知られたトピックの一つであるカーゴ・カルトを総合的に扱った古典的書。

松島泰勝、『[ミクロネシア 小さな島々の自立への挑戦](#)』早稲田大学出版部、2007年  
日本との関わりの深いミクロネシアに関しては、様々な文献があるが、本書は其中でも比較的網羅的なもの。

豊崎博光、『[マーシャル諸島 核の世紀](#)』日本図書センター、2005年

マーシャル諸島を軸に、20世紀の核問題を世界規模で総括。2005年日本ジャーナリスト会議賞受賞

(2013年9月 山内 由理子)